



参政党新宿まなびとまもりの会では、新宿区政に関する情報や区議会報告の他、区民のみなさまのお役に立てる情報の発信をしていきます。



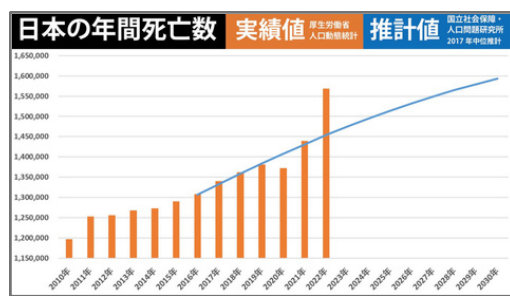
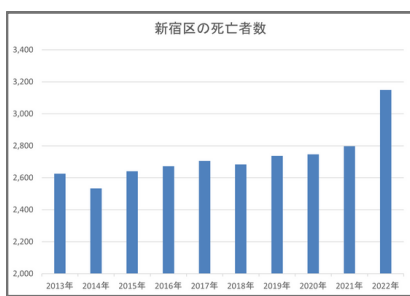
新宿区の死亡数が増えています！

こんにちは。新宿区議会議員の青木仁美です。

東京都総務局統計部のデータによると、新宿区の死亡数は過去10年間2,600人から2,700人くらいで推移していますが、昨年の死亡数は3,149人と、前年の2,798人を12.5%も上回る人数となっていました（左・中央の図）。これは全国的にも同様の傾向で、日本全国の実績値と推計値のグラフをみると、2021年までは推計値とほぼ一致していますが、2022年には推定値を大きく上回っています（右の図）。

高齢化により、元々死亡数は年々増加傾向にあります。これらグラフから読み取れるように、昨年はそれまでの傾向を大きく上回っています。

年	死亡者数	前年比較	人口
2013年	2,626	-	325,723
2014年	2,533	-3.5%	327,492
2015年	2,641	4.3%	329,979
2016年	2,672	1.2%	335,603
2017年	2,706	1.3%	340,600
2018年	2,684	-0.8%	345,126
2019年	2,737	2.0%	349,707
2020年	2,746	0.3%	352,712
2021年	2,798	1.9%	350,037
2022年	3,149	12.5%	346,028

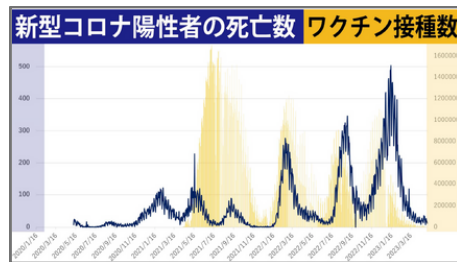


これらを踏まえて、新宿区に2022年の死亡数の増加について、原因の究明が必要ではないかと質問しましたが、区としては調べるつもりはないとのことでした。

とても無責任だと思いませんか。昨年急に死亡数が増加し、新型コロナで亡くなった方の数を大きく上回る数字となっています。それなのに区としては原因を究明する気がないというのです。区民の生命、身体を守るのは区の責務です。死亡数増加の裏には、何らかの健康疾患が潜んでいる可能性もあり、原因を調査することは区民の命を守るために必要なことではないでしょうか。手遅れになる前に何らかの手を打たなければなりません。

右の図は、新型コロナワクチンの接種数と新型コロナ陽性者の死亡数の2つのグラフを重ねたグラフです。このグラフからは、ワクチン接種数と死亡数の2つのグラフが連動し、波が一致しているのがわかります。このデータが示すように、新型コロナワクチンを接種すればするほど新型コロナによる死亡数が増えるという説もありますが、それについても区は調査するつもりはないとのことでした。区民の命を軽視するような答弁が残念でなりません。

裏面に、令和5年第3回定例会でこの件に関して一般質問した内容をまとめましたので、そちらもぜひご覧ください。



令和5年第3回定例会で一般質問をおこないました

令和5年第3回定例会が10月17日に終了しました。

参政党新宿まなびとまもりの会では、2つのテーマで区長に一般質問をしました。残念ながら、今回も満足できる答弁ではありませんでしたが、引き続き皆さまの声を議会に届けてまいります。

質問1

予防接種健康被害 救済制度について

新型コロナワクチンによる健康被害の申請件数は増え続け、1種類のワクチンだけで、過去45年間の認定数を超えている。

一方で、申請書類の多さや煩雑さなどで申請できない人もいます。そのような状況において、以下の2点を質問しました。

1 XBB対応ワクチンの接種が始まったが、副反応や健康被害の発生に関する情報提供が十分に行われているのか。

2 書類の作成に困難があるなどで申請できない方に対して、区として支援体制を強化する必要があるのではないか。

区長答弁

XBB対応ワクチンは有効性、安全性について審査され、厚生労働省が承認したものである。接種後の副反応や健康被害救済制度については、これまでも広報新宿、区ホームページや接種券に同封するチラシ等でご案内している。

新宿区に健康被害救済制度を申請された場合は、申請者の体調を踏まえて相談の日程を調整するなど、丁寧な対応を行っている。引き続き申請者に寄り添った対応をしていく。

最新情報は
公式ウェブサイトで



青木仁美
X(旧Twitter)



質問2

新宿区の死亡数の 増加傾向について

全国的な傾向だが、新宿区でも昨年の死亡数は前年を12.5%も上回る人数となっていた。また、ワクチン接種数と新型コロナ陽性者の死亡数の2つのグラフの波が一致しているという見方がある。それらのデータを示した上で以下の2点について質問しました。

1 新宿区としては昨年の死亡数の増加についてどのように考えているか。原因究明の予定はあるか。

2 新型コロナワクチンを接種すればするほど死亡数が増えるという見方があるが、新宿区の見解はどうか。

区長答弁

国や区の死亡数が増加したことを把握しているが、国が原因の分析ができていないため区としても原因を把握できていない。

厚生労働省はワクチン接種が原因で多くの方がなくなっているという情報は科学的根拠や信頼できる情報源に基づいていないと注意喚起している。

コロナ対策にしてもワクチン被害にしても、まったく科学的知見を取り入れようとしない政府。区がその方針にただ従うだけとしたら、区民の安全は誰が守ってくれるのでしょうか。私たち一人ひとりが正しい情報を得て、自ら考え選択していくことが本当に重要になっています。

青木仁美（あおきひとみ）
新宿区議会議員 令和5年4月初当選
参政党新宿まなびとまもりの会代表
関西学院大学文学部哲学科卒業
新宿区山吹町在住



発行元：参政党新宿まなびとまもりの会

162-0801 東京都新宿区山吹町366-1-1304

電話：050-3690-1501

メール：info@aokihitomi.com